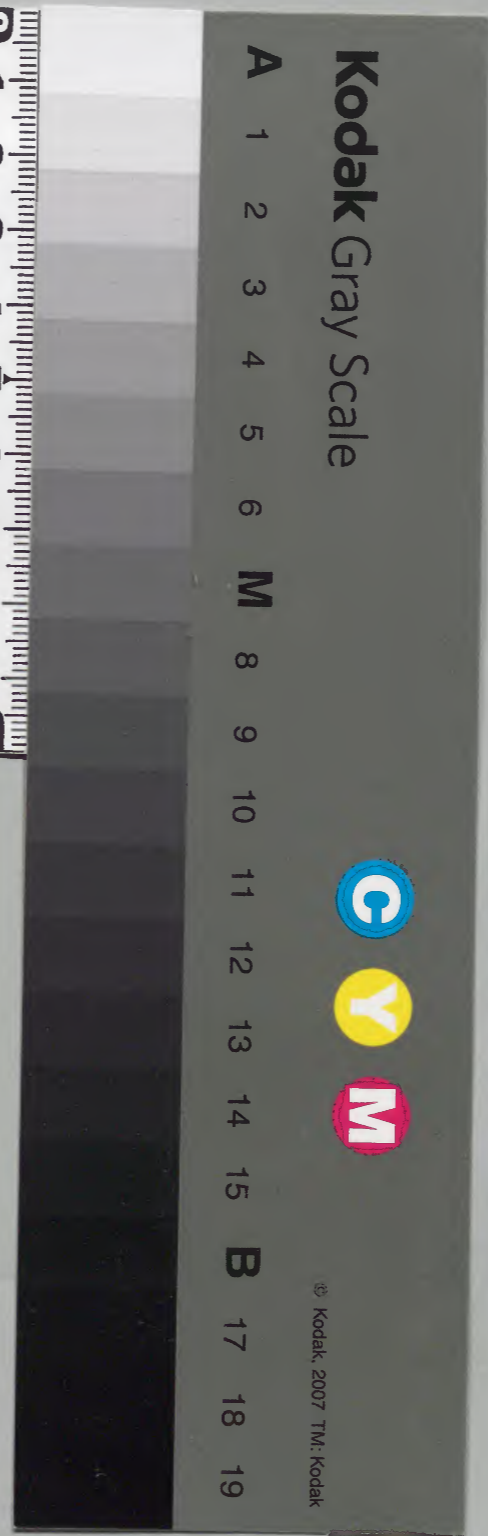


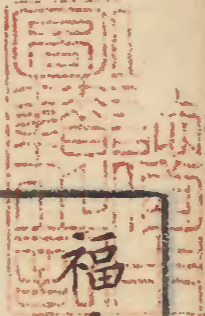
和書門			
二九三一五號	一七一函	一三五冊	三五冊

內閣文庫		和書
二九三一五號	一七一函	一三五冊

內閣文庫	
番號	和 29315
冊數	35 (20)
函號	175 172

地五七



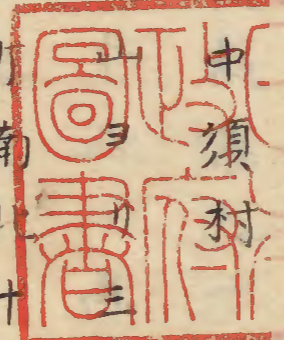


福

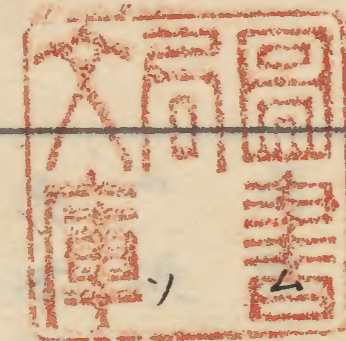
山志稿卷二十

邑里第十

福



二町南北十町
里二十町成
亥ニアタル



田畝

カシハ中洲村トテ
芦田川ニツニ岐レタル
ソノ中ニアリシト云

八十一町八反六畝十七步

内畠四十二町七反三畝二步

歳額



内一〇一五

八百四十一石二斗二升四合

内畠三百六十四石三斗六升八合

戸口

戸百六十四

口七百十四

内女三百五十五外二僧三畧一

畜

牛八十九 馬九

溝渠

芦田川

高木村栗柄村界ヨリ新市村相方村界マテ堤

長八百九十七間

砂川

池塘

岡池

長四十七間四尺横三十六間

小池一

橋約

小橋八

廟墓

良大明神

外ニ同名ノ社一ツ假名ニテカリソノ故ヲシ

ラス

北條大明神

明細書ニ法城トアリ北條ハ地名ニコノ類神

ニヨリテ地名トナルカ地名ヲ神号トナセシ

カ

小祠十二

別ニ縫殿介社軍大明神アリ軍神社廣谷ノ條

ニニコ

塔寺

圓福寺

石峰山真言宗榮明寺末寺開山省智法印寛文

二年寂

本覺寺

妙谷山法華宗本興寺末寺

六郡志ニ京都如能寺尾崎町具与ありあり

云此寺モト栗柄村鴨谷ニアリ

西法庵

又西方寺庵ト云

栗柄村ノ余ニ鴨ヲ鳴作借是按

コノ西法庵ハ古ハ龜地山西法寺ト云レ古

跡にムカシハ寺迫ト云處ニアリ今ハ北條ニ
アリ文祿年中廢壞スソレヨリ寺号中絶セシ
ヲ今ハ西法寺庵ト云當寺ノ本尊ハ當時龜尊
山ヨリホリ出セリト云西法寺退轉後ハ里正
ノ宅ニ安置セシガ寶曆四年甲戌二月一庵ヲ
建立シテウツシテ本尊トス寺号免許アリテ
有地村正滿寺末寺トナルト云

小仙屋二

懸亭二

竹安 茶堂

古蹟

黒尾谷

通證ニ宮内黒尾明神皇太子ノ二社共ニ先年
ハ中須村ノ内新市ノ近邊ナル黒尾谷ニ鎮座
アリシヲ後ニ宮内へ引マツリシナリ本コノ
社ハ品治氏ノ祖神ニシテ當時品治氏ノ人々
此黒尾谷ニ住セシユハ此所ニ祀リ来ルイツ
ノ比ヨリカ同村ノ中カセキトイヘルトココ
へ居ヲ移セシニヨリ又其所ニ皇太子ヲマツ
レリ黒尾明神ヲ合祭セシニヤ差出張ニハ黒

尾ト地名ノコトク肩書ニシタリ然トモ元来
 黒尾皇太子ニ神別坐ナレハコリ今宮内ニモ
 二社ナラヘ建タレ此カセキヘ祭リシモ宮内
 へ祀リタル後ノヨシイニ傳フ黒尾谷ニ今ハ
 社ナレトイヘリ
 軍ノ端
 廣谷トツ、ク
 旗立石
 宮下野守ノハタヲタテレ所ト云

高木村
 福山ヨリ四里乾ニアタル村東西十五町南北
 九町
 田畠
 九十七町二反二拾一步
 内畠四十二町一反七畝十四歩
 歳額
 九百五拾九石六斗七升四合
 内畠三百十二石二斗四升
 戸口

戸二百二十

口千二

内女四百九十三僧七替二外茶筥二十三穢多

十七

畜

牛七十五 馬五

溝渠

芦田川

堤長八百七十六間

砂川

府川村ヨリ中須村へ落ル

井手溝

中頃ヲテ八百四十間幅七尺

橋約

舟本

大木

馬渡

尾道往来

小橋九

廟墓

王子大権現

通證ニ社内ニ豊武大明神トイフ所アリ此村
豊田氏回上氏ノ先祖山伏ヲコロスソノ靈タ
リテ災ヲナシケルユヘ神ニイハヒレト云

稻荷社

小祠五

通證ニ宮造ノ社アリ應永ノ比一宮座帳圖ニ

工

今按ニ造ハ國造伴造ノ造ナルヘシ

塔寺

西雲寺

光明山浄土宗智恩院末寺開山品譽上人巖龍
和尚金龍寺ノ一代ニ六郡志ノ寛文ニ子七月

二十日他山傳山涅槃寺ニ寄書ト云

又云本堂額ニ山廓照山ト云

通證ニ西雲寺ハ町村金龍寺ノモトノ隱居所

ニ寛永十二年ハレヲ西雲寺ノ号ヲユルヤ

レ萬治三年本寺直末ニナレリト或記録ニ

工夕リ

寶臺院

高木山曹洞宗龍興寺末寺開山通岩徹水和尚
懋亭七

小才

コノ亭吉祥寺跡之本尊薬師府川法樂寺ニ
アリシヲ府中明淨寺ニツクリ改テ本尊ト
ス

天満 上ヒラキ 中ヒラキ 河原 一ナリ

天満 上ヒラキ

西府川村

福山ヨリ四里五町亥ニアタル村東西五町五
十間南北六町四十九間

此郡志云此梨氏淵の上杉郷の古村也
今之府中市あり今之府中市に所在り
素之輩の祖又云云云云云云云云云云
の時當府中市中あり
末所村ありとのりて
所あり村ありとのりて
端あり系ありとのりて

戸三十八

口百八十九

内女八十六僧一

畜

牛十四

溝渠

芦田川

堤長九町二十間

沙川

町村高木村へ落

小溝

府中ヨリ流来ル

堰開

大井手

長三十間横三間高一間

橋約

圮一

廟墓

天神宮

當村高木二村生土神

二宮大明神

小祠五

塔寺

法樂寺

補陀落山真言宗榮明寺末寺

上郡志少付与古例との御との祈願との由明

王院隆長親意上人中され与栴札の文にて不

記

杉原播磨守

大願主木梨民部大夫

木梨七左衛門

天文二十一年壬申年八月建

池田隼人

願主

同 帶刀



又云此基菩提寺基より一は之宗休公時迄
は之屋あり廣隆回廊あり之可村榮明寺

寄名法印建立のしされまきし今之相換

依之宿名法印と申無異山と改

榮明寺宿泉

元和七年酉年五月建豊田九郎九衛門元直

池田惣九衛門信政

観音堂古之とつり外にありあり

元和十甲子年観音堂修復

寛文八戊申年十一月観音堂門内江引修復

又之池田隼人苗刀出陣時の禮形ありあり

位牌あり

池田隼人忠政法名小峯淨運居士天文二十二

甲寅七月二十八日池田帶刀政利法名知雲政

利居士慶長七壬寅六月二十一日

法樂寺住持記

通證ニノスル處事長ケ
レハ要所ノニシル不

備後之國芦田郡府川村補陀落山法樂寺千手

院者當初行基菩薩開此地給傳聞也往古府中

之場所所有當地依東西南北賣買便得安中古文

録之比場所出口村今一日市江引故世人字當

所云古府中然所去比本府紛敷故改府川行基

菩薩諸國行脚之砌當寺開基云住持中絶寺院

破滅之間幾年不知殘所本堂一字于時天文二

十一比天台宗有現住名不知再建供養大檀主

木梨七左衛門尉經珍土生村瀬上在城也寺造

宮之行事寺附、正檀那、古府中、任池田隼人正忠
政池田帶刀政利自是四十年余無任也
天正之比壽光ト云老尼^{ニキ}敷^{レキ}當寺住居元知之
比滿八十餘歲而死
右ノ外元和以後ノ事ハ六郡志ト同之
略ス
通證ニ此寺古書目錄アリ
一雜書拔書一冊卷尾ニ永亨九丁丑三月吉日
書之定賢トアリ
一行法問答義一冊卷端ニ盛遍之卷尾ニ文永

十一天七月備後賢清之トアリ

觀音堂

地藏堂

ト郡志不出并小あり
ト郡志不出并小あり
ト郡志不出并小あり
ト郡志不出并小あり

通證ニ云東泉庵ト云古寺跡アリ今其旧址ニ
四ツ堂アリ此寺ノ古佛數々アリシカ今處一
ニ散在セリ今栄明寺ニモ數々アリト云一説
ニ當村ノ天満宮ノ尊像ハ即此寺ノ十一面觀
音ノ像ナラントイヘリ余天神閣扉ノ氏拜シ

其れを井より出さずし流を来りしうらぐしと
川のほとり村皆山ありしと云は余程ふと少なり
りのあるちありしと云はしめりしなり
次なるしつ山ありてなるの生なりしと云は
井と流りて程のありはさき井の奥なる也
しりぬりたるさき山ありて山ありて
物とくみればぬれを井の傍にす一ハ切石
少く旧古の二字あり一ハ自然なる文字の
取しりしと云は傍にすりて山ありて山ありて
此なるハありしと云は山ありて山ありて

今ふの流石より出さずし流を来りしうらぐしと
川のほとり村皆山ありしと云は余程ふと少なり
りのあるちありしと云はしめりしなり
次なるしつ山ありてなるの生なりしと云は
井と流りて程のありはさき井の奥なる也
しりぬりたるさき山ありて山ありて
物とくみればぬれを井の傍にす一ハ切石
少く旧古の二字あり一ハ自然なる文字の
取しりしと云は傍にすりて山ありて山ありて
此なるハありしと云は山ありて山ありて

通證ニ今鳥井ノ東石ニ日吉ノ二字有石ニツ
アリ一ハ角石一ハ自然石アリ角石ノ文字再
建ノ片彫刻セリトモ又ムカシヨリ有共云文
字ノ廿ニ近世ノ書トモ定メカタシ又自然石
ハ曾テ近鄰ノ法樂寺ノ竹林中ヨリ掘出セリ
日吉ノ二字アルヲ以テ村人此鳥井ニ附セリ
小モキコエ又大同ノ文字アリト傳ルエハ廿
カシ見レトモ見ヘス鳥井ノ笠石ニアリトイ
ヒシ人アリシエハ余曾テ人ヲシテコレヲ見
セシムルニ見出サス或ハ履石ニアリトモイ

ト土中ニ埋没セリ笠石ニ本山村ト書柱ニ
宝曆再建ト書スルハ大ニ古色ヲ損セリト
云同書ニ耳語橋ノアリシ所ナレハ或ハ橋柱
ノ、コリタルヲ鳥井トオモヒテ文字ナト工
リシニヤトモ云

今按ニ此地古ノ國府ノ跡ナレハソノカミ
コ、ニ居住セシ官吏等ノ屋鋪學校等ノ跡
モアルハキニ今フコト云事知人ナシコレ
ハ何國モ同然ニテアナカキニ此國ノニニ
攀称スル事ニモアラサルヘケレト陵谷澹

桑ノ變コノ後的知スヘクナルハキ事無ニ
 且モアラス或ハ陶銅古器古敦瓦等ノモノ
 土中ヨリ掘出ス下アリ或ハ古墓古誌等ノ
 品水岸道側ノ岸ヨリ露ハル、下アリ或ハ
 備後風土記故府中圖記等ノムカシアリテ
 今ナキモノヲモハヌ方ヨリ出ル下モアル
 へケルハ今ソノ大略ヲアケテ後世ヲマケ
 又コノ國ハ質樸カキテ禮文タラサリシヲ
 當初聖主賢臣打ツ、キテカリノ如ク經營
 アリソノ後數百年ノ亂世ヲ經シカモ今尚

今ノ世界ニハナリタルソノ御患ノ一端ヲ
 理想見スルタメニス
 守人 介人 掾人 目人 史生 喜延
 式作四人 餘 大教一人 少教二人 主帳
 十令ニシユ
 人ニ 校尉五人 掾師十人 隊正二十人 博士
 人一 醫師一人 學生四十人 醫生減五分
 徒兒五十人
 右ノ外守ニ隨從スルモノ國司ノ條ニ大槩
 ヲ擧クソノ外介以下諸吏單身ニアラス各
 護衛供給ノ人モアルヘケレハ官署私宅コ

主政二人主帳二人アリ又軍團一千人アリ
 コレヲノ輩十四郡ヨリ事ニ随テ来集スヘ
 シ
 類聚國史云陽成天皇元慶二年九月十三日
 戊午先是遠江國司言前司時燒亡官舎二十
 五字倉一百四字交替之日不輒言上云コ
 レヲ例メレルヘシ外ニ又孔子廟及國學ア
 リ
 延喜式雜式諸國釋奠式二

釋奠二座
 先聖文宣王先師顏子但大宰
 府者先聖先師閔子騫三座

器數

籩	杓	樽	俎	簋	盞	豆	籩	釋奠
三	四	四	六	四	四	十六	十六	二座
幣并祭文版	如上一其實	樽別	實玄酒醴齊	座別各小鹿豕	大鹿各三其實	座別各二其實	之簋其外圓內方謂	座別八竹豆謂之籩其實石鹽乾
								魚乾栗黃榛人菱人鹿脯
								座別八木豆謂之豆其實莖菹醢
								醢菹醢笋菹魚醢
								座別二外方內圓謂
								之簋其外方內圓謂
								座別二外方內圓謂
								之簋其外方內圓謂
								座別各三其實
								大鹿各三其實
								座別各小鹿豕
								實玄酒醴齊
								樽別
								如上一其實
								幣并祭文版

爵 八 座別各三

坩 一 同坩

昨完俎 一

簋 一

盥壘 一 水寶

杓 一

洗 一

爵巾篚 一

幣帛 二條 各長一丈

巾 二條 各長四尺

楸版 二枚 書二座祭文料各長一尺二寸七分六分

篚 二合 盛幣

炭 一斗 燒祭文

松明卅把

油 一升 廟中燈料

盞 四口 燈蓋料

凡盛物、籩實、石鹽五顆、乾魚、乾粟、栗、黃榛、人菱、人菱人各一升、鹿脯一斤八兩、豆實、菹菹一升、醢醢五合、菁菹一升、菟醢五合、笋菹一升、魚醢五合、簋簋實、稷飯用米六

合黍稻梁飯各用米七合樽壘皆一斗為量牲
者皆載右肝前脚三節肩臂臠節一段皆載之
後脚三節七一段去一節載上胛骼二節又取
正脊髓脊橫脊短脇正脇伐脇各二骨並以餘
皆不設若土無者皆以貝類充之

職掌

三獻官三人

守為初獻介為亞獻博士為終
獻若守介有故並以次差攝博

士有故取
生以上概

參軍事一人

掌請謁并導
引初獻事

贊禮

掌導引亞
獻終獻事

祝二人

掌授幣讀祭文
賜福酒事

掌事二人

掌設帶神位及陳樽
壘沽爵辨備饌等事

贊唱一人

掌庶庭諸
及儀式事

協律郎一人

掌執麾
節樂事

贊引一人

掌道引
學生事

執樽四人

先聖二人先師二
人掌奉幕楹杓事

洗所三人

一執洗一執篚一執
壘掌獻官盥具事

執俎二人

掌賜
位事

執籩一人

掌同
上事

執饌十人

掌奠俎
豆事

前享三日、守散齋於廳別寢二日、致齋於廳事
一日、亞獻以下、預享之官、散齋二日、各於正寢、
致齋一日、於享所、散齋、理事如舊、唯不弔喪問
疾、不作樂、不判署刑殺文書、不得刑罰、不預穢
惡、致齋、享事得行、其餘悉斷、其享官已齋而闕
者、通撰行事、其諸學生、皆清齋於學館一宿、若
上丁當國忌及新年祭、改用中、其諒闇之年、雖
從吉服、一從停止、
前享二日、掃除廟內外、設樂懸於廟庭、又為瘞
埴於院內堂之土地、方深取足容物、南出堦、設

守以下次於門外、随地之宜、

前享一日、晡後令健兒守廟門云云

維某年歲次月朔日、守位姓名、敢昭告于先聖

文宣王、維王固天攸縱、誕降生知、經緯禮樂、闡

揚文教、餘烈遺風、千載是仰、俾茲末學、依仁遊

藝、謹以制幣犧齋菜盛庶品、祗奉舊章、式陳朋

薦、以先師顏子配、尚饗、以上孔子祭此文

維某年歲次月朔日、守位姓名、敢昭告于先師

顏子、爰以仲春、仲秋率遵故實、敬脩秋奠、于先聖

文宣王、惟王庶幾體二德冠四科、服膺聖門、實

臻壺與謹以制幣犧齊案盛庶品、式陳明獻從

祀配神尚饗以上顏子

諸國釋奠云凡諸國春秋秋奠先聖先師二座、

別米二升、酒二升、脯一斤、饍一斤、並直稻雜腊

一升、把直五雜菓子各一斤、束直一燈油五合、幣絹

一丈八尺、國司以下、學生以上、人別米酒各一

升、脯饍各五兩、雜腊五合、明衣布衫四領、別二

尺布袴四腰、別五尺食單十一枚、十枚別三尺

八寸三尺具明衣以下、破穢乃換、

右ノ外マ夕兵庫ト云モノ國々ニアリテ

兵器ヲ夕クハ一ラル真觀八年九月七日

美作國言兵庫鳴聲如擊鉦鼓同十三年壹

岐國兵庫鼓鳴同年佐渡國兵庫震動凡兵

庫ノ丁諸書ニ多シマ夕甲斐ノ兵庫モ鳴

動セシマアリ具廿マ微小十ルモノトハ

三ユス

續日本記卷第二十云、天平寶字元年、古者治

民安國、必以孝理、百行之本、莫先於茲、宜今天

下家藏孝經一本、精勤誦習、倍倍加發、百姓間有

孝行通人鄉閭欽仰者、宜令所由長官、具以名

薦

コレヨリ以下引ク處ヲ之テ當時ノ政教
ヲウカ、ヒ又コレノ府川村ノ力之ノ先
景ヲ想見スヘシ
朝野群載補郡司官符

一擇吉日可度雜公文由牒送前司事

自餘公帳隨國例耳次巡檢諸郡塩穀類及

雜官舎有五行什器等若有不動穀者依丈

尺高勘之其動用穀者數弄土石以實受領

次勘官舎神社學校孔子廟堂等祭器國廳
院共郡庫院驛館厨家及諸郡院

別院騎家佛像國分
二寺堂塔經論業

續日本紀卷十云聖武天皇五年八月壬申太

政官議奏改定諸國史生博士醫師負并考選

叙限史生大國四人上國三人中下國二人以

六考成選滿即與替博士醫師以八考成選

延喜式云凡諸國博士醫師解任之後既進解

由者各遷本司令熟本業各注上日每年申省

與考若望更任者聽之不勞覆試其被試及第

既任遭喪者不符服闋復任藥生緣侍醫師其
仕者亦准之

秩滿任解之後更任者亦同此例但先未經課

試者、不在此限。
凡諸道學生、才學頗長、其道博士、共擧為諸國
博士、醫師者、雖非奉試及第、皆為受業、自餘為
非業。
凡明法生、課試通六七條者、任國博士。
凡藥生等、雖不奉試、而習合藥療治者、侍醫等
共擧、申省任國醫師。
凡諸國權史生、博士、醫師、遷任并依讓相代之
輩、具籤符注所遺歷。
凡諸國受業博士、醫師、補任解文并籤符、名下

注各本業

凡諸國史生、博士、醫師、籤符外、記勅會補任帳、
明知其補由、然後請印。卷十一
右ノ外又講師、讀師、十十云、モノヲ任ニ下
サレテ講説ヲ十サシメラルル講師イコタ
下ラサル間ハ國分僧ヨリ撰ヒテ代ラシ
メ、讀師ハ國分僧ノ次第ヲ以テサシムト
シユレハ寺ニハアラスソノ彼所コタコ
、ノアタリニアルヘシ
前後文字マ、脱
誤アハニ似タリ
凡日ノ考
ヲマツ

續日本紀天平勝寶二年五月乙未於中宮安
殿請僧一百講仁王經并令左右京四畿内七
道諸國講說烏
延喜式凡諸國講讀師者察與僧綱俱孟冬一
日簡定條送省具條僧綱盡署但其條不便條綱所留察
家副察解送省送省亦加解文共進官即經奏
聞明年二月以前下任符其裝束程准俗官法
若有事故安居以前不到便令前講師或國分
僧堪之者且為講說其供養布施料者隨各講
經日數分充

凡諸國講師擇年四十五已上讀師四十已上
者補之但雖階業已滿之輩而年限未及不可
擬補
凡諸國講讀師任意留連遲向任國延引日月
之類一切不得選用并預公
清行意見十二條云重望諸國講讀師雖成階
業非精進練行者不得擬補又國分僧若有濫
穢而講讀師不糾者解却講師
類聚三代格云太政官符應簡任諸國講讀師
及調替六年為限事

右得綱條、你按大政官去延曆十四年八月十三日符、你右大臣宣奉勅、如聞諸國亡師、任限六年、蓋預他事、煩以解由、自今以後、宜改國師曰講師、每國置一人、學才堪講說、為衆推讓者、申官奏聞、然後聽補、一任之後、不得輒替、但讀師者、國分寺僧、依次請之者、今於諸講師、或身斯老死、或情無知足、則自倦講席、何堪誨導、遂便汚法、隨罪、背師棄資、加以當國司等、檢掌伽藍、諸寺綱維、趨走府廳、此非道侶異形、魚鳥殊性之意、伏望簡大德而任講師、學少識而補讀

師、限以六年為秩滿期、其部內寺、寄附件師、然則用人之采、永存媚佞之辱、自息、謹請處分者、右大臣宣奉勅、所以撰用講師、特居外任者、本欲人能弘道教、以民利也、而今名應簡擢、實乖妄寄、然則昧進之可責、豈非採擢之乖、方宣準所請、折中處分、其講師年限、一依來請、但淺學之輩、未練戒律、年少之人、時間違犯、宜簡年四十五已上、心行已定、始終不易者、補之、簡才用讓、申官經奏等、一同前格、若有自事銜實、豈求佞學者、永從擯出、以懲後輩、如僧綱受囑、探情

論之、其讀師者、依旧用之、又部内諸寺者、講師
國師、相共檢校、不得獨恣

以上數件ニテムカシノ國府ノアリサマ

略ニルヘシ

名勝

耳語橋

名所方角抄
秋寐覺等

能因法師

熊野ノトシノ川ヲワケサシメテササキ

のハ一カハシ

今按ニ町村ニサ、イケト云所アリソノ所

ニサ、ヤキノハレト云小橋アリソレニヨ

リテソノ川ヲ音ナシ川ト云ニテ後入ノ附

會ニ六郡志及通證ニセタル辨論マケ晋

帥カ聞ク所等クハレク辨説ノ條ニ出ス

芦田川 名所方角抄三才圖
會和尔雅秋寐覺等

夫木集

讀人不知

稀少キト云クハレク辨説ノ條ニ出ス

袖小ハレト云クハレク辨説ノ條ニ出ス

或云コノウタ今ノ
夫木集ニハノ

續松葉集後朝戀

あ〜あ〜とあ〜の〜 後の〜川〜

袖のふりしりしりしり

範興 熊野祠

名ふとゆえにわかれりて

新めしむしぬふく

忠 豫川渡邊 友九衛門

わけのこる月をりし

源一ふのちり

正 西山 拙

さくくともとさくく

さくくせん

鴨祐為 梨木上 總介

ゆふのふりしりしり

新もふりしり

全

つりし川りしりしり

ゆふのふりしり

梨木氏ノ二首ハ中津原ニテヨナルウタニ

此ニ附ス範興以下ハ十近人ニ

廣谷村

福山ヨリ四里成矣ニアタル村東西十七町二
 十間南北十七町二十間
 与郡与山玉一に地あるの色一に常神との色
 ちて移飼村と一に廣谷との色とは廣谷村と
 いふよりもや神宮が引つた一の地少は廣谷村
 とつらうと移飼村とつらふ一廣谷移飼二村
 少とつらう一少ハえおつたの多と一とつら
 飼ハ今一少のアサ十とある
 通證云慶長三年伊勢太夫配札帖ニ鵜飼村ト
 アリ

田畝

八十町四反三畝二十四歩

内畠二十四町五反五畝十六歩

歳額 八百二十四石六斗九合

八百二十四石六斗九合

内畠百五十四石三斗四升三合

戸口

戸百四十一

口七百五十一

内女三百五十僧十替四外穢多四十七

畜

牛五十六下馬三

溝渠

鴉飼谷小川

常村ヨリ高木ヲテ長八百八十間

本谷川

宮内村ヨリ高木村ヲテ長六百二十四間二川

トモニ織流ナリ

八下池塘

小池十一

堰開

開一

長六間幅三尺

水碓二

橋約

小橋十六

山溪

嶺三

于塩

宮内二通ス

木曾丸

宮内連下ニ通ス

市木

常村ニ通ス

廟墓

清瀧大明神

鷓鴣生土神

山郡志小清の銘、小傷後、由、若田郡於、飼、村、清瀧、大明神、主、有、馬、八、帝、兵、馬、匠、去、乃、是、真、閑、定、至、八、乙、庚、申、九、月、吉、日、と、あり

通證ニ村老ノ口碑ニ鷓鴣清瀧大明神ノ社ハ

イニシヘ同所十輪院ノ上ノ高丸ニアリシト

イヘリ此山ノ名ヲハナシテ御前ト云今此所

ニスコシノ壇アリ

稲月大明神

本谷生土神

通證ニ載スル所清瀧稲月両社言上之略

勝照三年丁未初秋、既、戸皇子守屋道臣、御追討

之時、清涼殿惣司久米之大臣、稲月大臣、鬪戰、依

有忠、當國之國司被為備候ト申傳候、然ル所數

百年後宮 松岸卜奉申人羌安二年壬辰仲春吉
備津彦大明神不思議之蒙御靈夢則任御告之
旨二人ノ大臣奉崇神清涼大明神縮月大明神
之西社是也
一社領之義自昔三十六貫天正年中迄西社付
来り申候

一天正二十年先利殿被為破落于今無御座候
就夫宮破滅仕今ハ假之草草ニテ御座候

寛永十六年己卯祢生中之吉祥日
社務 意卜判

右御江戸へ依為言上當所ノ代官有馬平左衛
門元真古来數通之證文相尋書上之畢

今按ニ佛ニ皈依セシ人十ヲハ蕪我ノ縮目
ナルハニ縮月ト云人ハ見工又縮目ヲ守屋
大連力戰ニ會セシハ諸書ニ載セ又久米
大臣モ亦ソノ比ニ工ス清涼殿惣司ト云
官モ亦イフカニ縮目屯倉ノ下ニテ吉備ニ
而度来ル下アリアルヒハ惠政アリテ爰ニ
祭ニニニ 孝徳天皇ノ片来目臣 關 三輪
色夫君等法頭ト云官ニナリシ下アリ久米

アルヒハコノ人ヲサスカ

八幡宮

小祠八

塔寺

善行寺

加納山浄土真宗徳圓寺末寺開基善行

徳圓寺

龍松山浄土真宗明浄寺末寺開基春教

廣谷寺

朝光山臨濟宗開山封山知尚

上郡志行古ふく山々々の事あり新山ハ
永き了の一代あり松水子まき若く和為の事
通あり若く若くはあまちえ新住の事あり及物
山弘字の事あり

十輪院

陌明山榮明寺末寺采由詳ナラス六郡志ニハ

東地寺真言宗開山沙門秀雄中興法印宥智卜

通證ニ本尊觀音目崎西明坊本尊ノヨシ西明

坊廢絶ノ後當寺ニウニスモト榮明寺本尊也

十云又同書二十輪院本尊坐下銘ヲノスソノ
文ニ數百歳ノ昔讚州誕生院之法印宥範様此
榮明寺受勅開給候時云云今依令破損給頼諸
檀那之助成彩色者也寛永二年三月十一日府
中町村榮明寺自宥範十六代自範榮十五代目
之任持法印宥泉之時再興之者也トアリコノ
宥範力了別ニ辨説アリ

常福寺

清瀧山真言宗中興開山憲譽法印榮明寺末寺
古志出羽守武綱ノ子對馬守廣綱永享三年建立田五町八反ヲヨス田今十三
通證ニ此寺蓮華形水鉢ノ銘ニ天文二十一年

壬子十一月吉日尾道大工佐右衛門トアリ

懸亭三

有馬堂

六郡志云河孫院堂々々々府中住持云々
堂内小位牌行ノ實永十年室七月施之有馬大
院云々

今按ニ大藏ノノ女ノ夕ノニ立ルヨシナリ

伊豆谷 本谷

古蹟

上軍ノ端

下軍ノ端

事古戰場條ニシユ

此郡古小宮内小野の名の地ノ端ありと云
通證ニ中興寺ノ古文書數通ヲノス田地ノ名
ヲ注セシ中ニ軍神田一宮末社田三段ト云處
アリ軍神社今中須村ノ内ニ屬ス下軍ノ鼻ト
差出帳ニアリト云

白井水

此郡古小宮中住色の名の地ありと云
其地ニ又云白井乃ハ古小宮村有馬堂の東

西町河ノ水あり碓の如く水トて炎暑おとほ
冷ある水れり浅井の名古小宮中光蓮寺あり
いつきの頃の事おや上山村不孝心あるもの
ありそ母條命の時何ありとも好角まゝ酒をま
いりせんといひあるは白井の名を汲むはさ
せよといひあるはありとて汲みありり
りるらる木村まると二里條と有るんそ因茲
命の禮あれうまゝとれをいひて浅井の水を汲
て与けし是を白井の名おありり浅井の名
ありといひく死ありそ子淺泣して我今まで

畜

牛五十六馬一

溝渠

河湍川

本山村ヨリ府川村へ落ル

池塘

小池五

堰閘

水碓一

橋約

小橋六

内ニ廿、ヤキノハシ云アリ

山溪

澗一

或ハ音無川ト云

廟臺

小野大明神

通證云社地ニ惣社明神ノ社アリコレ此處ノ

地主ノ神ニシテ往古ヨリ此處ニ鎮坐ナリ今

本社小野明神ハ百年前此地へ移セシヨシ

小野明神ノ旧址ハ銀山路ヨリ東北ノ間平地ニシテ民家ノウラニアリ村人ノ口碑ニハ昔イツノ頃ニカ伊勢ノ國ノ軍兵ニ出口村ハツ尾ノ城ヲ攻ムル片敷軍ニテ守護神ヲ捨置婦リシヲ村人氏小屋ヲ營シテ祭り置シユヘコヤ明神ト云其地ハ今ノ金龍寺ノウシロノ山ナリコレヲイセイガト今ニ云此説若シ是ナラハ其後今ノ民家ノウラニアル旧址ハウツセシモノナランカ是非ヲ知ラス

小祠十三

内ニ大明神ト云小野宮境中ニアリコレ惣社ナラント云諸國ノ惣社必大社ナリコノ處古府ナレハ國中ノ神ヲアツメ祭ル所ナルニシ

古墓一

梁明寺ノ後邱ニアリ形古雅ナレ正設字碑ナリ
塔寺

梁明寺

教王山真言宗御室末寺
与郡与尔備後四箇の段跡の内与り四段跡也

辰道初不_レ与_レ上下の仙_レ後中_レ条_レ廢_レ山_レを_レよ_レひ
はるあり_レと_レ文_レの_レ比_レし_レ廢_レ跡_レし_レあり_レと_レも_レ号_レ毛
う_レ強_レし_レを_レえ_レ和_レの_レ比_レ宍_レ籠_レ上_レ人_レ再_レ興_レせ_レし_レ也
再_レ院_レ跡_レの_レ一_レと_レあり_レと_レ云

通_レ證_レ云_レ此_レ寺_レ毛_レ上_レ銀_レ山_レ路_レノ_レ側_レニ_レア_レリ_レ天_レ正_レノ_レ比
今_レノ_レ處_レニ_レ移_レス_レ大_レ門_レト_レ云_レア_レ廿_レ十_レ了_レリ_レト_レ云

同_レ書_レニ_レ載_レス_レル_レ所_レノ_レ由_レ緒_レ書

一_レ當_レ了_レ開_レ基_レ後_レ他_レ古_レ者_レ委_レ細_レ知_レ少_レ中_レ比_レ中_レ興_レ子
山_レを_レ濛_レか_レる_レ過_レす_レし_レ後_レ心_レ道_レ也_レ宍_レ籠_レ傍_レ云_レ子
以_レ爲_レん_レ夫_レ々_レ以_レ來_レ河_レ石_レ有_レ余_レ年_レ之_レ物_レ中_レ比_レ也

今_レ按_レニ_レ六_レ郡_レ志_レニ_レ中_レ興_レ開_レ山_レハ_レ元_レ和_レノ_レ比_レ宍_レ籠
上_レ人_レト_レし_レ工_レ通_レ證_レニ_レハ_レ宍_レ籠_レ觀_レ應_レ三_レ年_レ七_レ月_レ寂
ス_レト_レ云_レ觀_レ應_レハ_レ貞_レ和_レ六_レ年_レ正_レ統_レノ_レ正_レ平_レ五_レ年_レ直
義_レ歸_レ順_レノ_レ年_レ十_レリ_レ年_レ代_レヨ_レホ_レト_レタ_レカ_レへ_レリ_レ六_レ郡
志_レ誤_レル_レカ_レリ_レノ_レ是_レ非_レヲ_レシ_レラス_レ元_レ和_レハ_レ天_レ下
偃_レ武_レノ_レ氏_レニ_レテ_レ國_レ上_レ所_レニ_レ旧_レ跡_レヲ_レ興_レス_レ宍_レ籠
コ_レハ_レワ_レタ_レリ_レニ_レハ_レア_レラ_レス_レ善_レ通_レ寺_レヨ_レリ_レハ
ル_レカ_レニ_レ弟_レ子_レヲ_レ来_レラ_レシ_レメ_レテ_レコ_レハ_レカ_レシ_レコ_レノ_レ廢
寺_レヲ_レ再_レ建_レス_レト_レ云_レ明_レ王_レ院_レノ_レ中_レ興_レモ_レコ_レノ_レヒ_レト
十_レリ_レア_レハ_レセ_レシ_レル_レへ_レシ_レ或_レ云_レ宍_レ籠_レ毛_レト_レ金_レ枝_レ玉

似分右流礼寺指とありし
一 第十代因幸通法尔一時と云年中百五小
て大経の流ち切堂法學堂法新法流樓廻廊
全剛力士等と云ふ一時少僧候仕と云候
の寺室等も焼失仕
一 之後法尔宗智真無の御系と云ふ人丈材
本等外西流神の流候と云候は、
等造と云仕
右ノ外事長ケレハ略ス
今按ニコ、ヲ談義所ト云下慶長ノ始ノ伊

執配礼帳ニミエタレハ久シク云ツタエタ
ル下ナルヘシ 花園帝中庸ノ談義ヲキ
玉フ事園大曆ニ出ツソノ比マテハ談義
ト云ハ儒書ヲ講スル下ニテ今ノ僧ノ談義
ニハアラス或ハ昔國司下向ノ片役僧ヲ置
レシ大和ナラニトイヘ氏朝野群載國司交
代ノ片引渡ノ物件ヲカソヘ攀タル所ニモ
神社孔子廟國分二寺ハミエテ佗ノ寺ハミ
エス况ヤ寺ハ人家ナカキ所ニハ禁セラル
例ナレハコノ寺ノ舊址市中トヲホシキ

所ニハアルヘカラス又前ニ引トコロノ講
讀師ノ詔令ニモ講説トハシハシユレ
氏談義トハシエスサレハ談義所ト云ハ國
學ニハアラスヤ九學校ノ仏刹トナリレ
一所ノナラス京都ノ十王堂ハムカレ十
哲ノ像ナリレヲ中比アラタメツクルト云
真ニシカルカ其堂製モ寺刹ニ似ズ利學
校ハ今禪僧ヲスツシム近比一友人ソノ地
ニ遊シニ堂室破壊ニ及ニトシ官ニ訴テ修
理ヲ乞フモシ許サレテ壯麗ニセハ孔子如

来モ御満足ナラント言レヨレヲカタル石
川文山ノ詩仙堂モ今女僧ノ房トナルコノ
類所々ニ多シ談義所ノ名ニヨルニ必ムカ
レノ學校ニテ乱世ニスム人モナリヨキ場
所ナリト僧徒占得レタルヘシ二十年前紫
嵩ト云天台僧備前閑谷ノ學ニアツヒコレ
ハヨキ寺刹ナルニ惜ムヘキヲナリト嘆セ
レトアリムカシモ今モサレテ成ヘキニコ
ソ此寺ハ管内大刹ノ一ツナルニ開基モ年
月モシレズト云ハ必ツタヘカタキ心ニテ

ツタヘサリシナルヘシ

金龍寺

紫雲山淨土宗智恩院末寺關山覺蓮社圓響上人真阿廓翁和尚下地領三百貫アリト云今ナシ通證ニハシメハ蓮池山トイヒシニヤ普同塔ノ銘ニソノ名ニ工此銘享保二十年ナリサレハ千カキコ口今ノ山号ニハ改メシナルヘシ同書ニ金龍寺記ト云モノヲノス事長ケレハ略ス又曰コノ寺モト吉田寺ト云天台ノ大刹ナリ仁王門ノ旧跡田ノアサナニノコル境内

頗大ナリシヨシニテ傍近ノ田ヨリ出シトテ今金剛力士ノ朽腐セル一軀ヲ存ス旧物ナルヘシ伊勢配札帳ニ吉田寺トアレハ慶長ニテモ旧名ヲトナシナリ吉田ハ葦田ノ略ナリト云ソノ外山号額記ナ手觀音大士略由石井銘石井庵記黙龍性潛律師行略等アリ長ケレハ略ス

潮音寺

補陀山曹洞宗龍興寺末寺關山通岩徹和尚通證ニムカシハ天台宗大伽藍ニテ子院等々

カリレト云

總亭三

堀垣内上田廿、イケ

古蹟

曇教庵址

大喜庵址

通證ニ潮音大伽藍ナリレトキノ坊舎ノ名今

民屋畠等ノ字ニコレアリ大喜庵ノ跡ハ今ノ

藤ノ棚ノ西ニテ民屋アリ曇教庵ノ址ハ寺前

ノ下レハ石邊ニテ田圃ノ間ニ荒神ノ祠アリ

此所ナリト云今是ヲトシケウノ荒神ト唱ヘ

リ寺ノ向ニ松原ト云地名アリ其外ニ王門ノ

旧趾市場トイトイエル地名モアリトイエリ

又寺前ニ大ナル蓮池ナリケルヨシ云傳

ヘリ慶長三年伊勢大夫配札帳町村ニ大喜庵

ヲセタリコレヲ以見シハソノ比コテハ存

セリ具以後ニ絶タルナルヘシ

荒木屋鋪

荒不根津守當村ニ偶居セシ事アリソノアト

ナリト云今ノ府中ニモコノ名アリ

本山村

福山ヨリ四里十八町子丑ニアケル村東西二

十二町南北三十三町

田畠

四十四町九反一畝一步

内島十九町三反八畝十四步

歳額

三百五十九石九斗六升

内島百一石七斗七升八合

戸口

戸九十六

口四百二十五

内女二百十二僧一

畜

牛四十二馬五

池塘

火吞山池

周六丁三十間

小池十三

小郡より村はつらとてあふれし
 とも池七ヶ所あり早損とせり
 とも池あり全に村へ下る力不
 火の池といふあり一ヶ所あり
 小住原の字ありふくありのあり
 とも人れとありこの後内と
 正佐惣次郎お被せりとも
 とも池あり一口ありこれと
 とも池あり一口ありこれと
 とも池あり一口ありこれと
 とも池あり一口ありこれと

山上池 六ヶ所 大池 口ノ池 尻ノ池 上
 新池 下新池 平岩池 此池 八正徳二年
 今按ニ大蛇ヲ殺セシ公青目寺縁起ニ萬壽
 四年三月十八日ノ日ト云
 山溪

嶺一
 力十、峠
 常ニ通ス

谷四
 小澗

廟墓

日吉山王権現

通證云此社昔ハ殊ノ外ナル大社ニテ今ノ町
村金龍寺ハ吉田寺ト謂テ當社ノ別當ナリシ
ト云傳ヘリ舊記ナケレハ鎮坐年代モ詳ナラ
ス愚按ニ恐ラクハ此村青目寺開基ノ時勸請
セシナラム此事ハ青目寺縁起ノ条ニクワシ
又云寛永十年再建ノ棟札アリ
又云今ノ社ハ元禄十六年ノ造立ナリ棟札ノ
文略ス

諏訪大明神

通證曰此社ノ来由詳ナラス諏訪明神ハ武田
家ノ守護神ハ此所ノ地名ヲ竹田ト云古城記
ニ此村ニ甲斐次郎ナルモノ有今コレヲ祀リ
テ土人甲斐次郎ノ社ト云今具末葉甲斐氏ナ
ルモノ民家ニ散在セリコレヲヨリテヲモ
フニ此甲斐次郎ハ甲州武田家ノ一族ニシテ
此地ニ来住スルヲモツテ地名ヲタケ田ト呼
ビ且其守護神ヲモ此地ニ勸請シテマツレル
モノナラン

小祠十二

内ニ清瀧大明神アリ通證ニ竹田ノ奥ニアリ
此所ノ地名ヲ御園張ニハ深田トアリ社ノ側
ニ澗流アリ此澗一面ノナラ石ニシテ水力
ニ次第ニ高シ雨後水勢ノ盛ナル所ハ實ニ布
ヲサラスカ如ニシテ頗ル壯觀ナリ人皆呼テ
竹田ノ瀧トイフシカレトモ水簾ニハアラス
此社土人ハ壻明神ト唱フ石端ノ曲ニマシマ
スヲモツテカク呼来レルナルヘシ此所ハ火
呑山ノ西南ノ麓出口村ハツ尾山ノ東北ノ麓

ニシテ其北奥ヨリ社ハ隔澗向ヒノ側ニ在テ
樹木生茂リイト蕭森タル所ナリト云

塔寺

青目寺

岩谷山真言宗栄明寺末寺
此寺縁起事長ケレハ要所ヲトリテ記ス讚州
屋島寺青目上人ノ開基也
延喜年中醍醐天皇御建立
天慶七年秋天火起リ諸伽藍一時ニ燼灰ス
長久四年ニ八尾山城主山名出雲守清氏ノ再

建百石ノ寄田アリ
今按ニ長久ハ六十九代
後朱雀帝ノ年
号ニテ山名家ハモハラ九五代
後醍
醐帝ノ代尊氏家ヲ起セシニヨリテ興リシ
之此時世ニ山名家ノ人西國ニ城主タルヲ
訝カシ山名ノ系譜ヲ見ニハ幡太郎義家ノ
男足利式部太輔義國ノ長男新田大炊介義
重ノ二男山名ノ次郎義範ヲ元祖トス長久
四年ノ比ハ源義家ノマタヤウヤク頼義ニ
随フテ奥へ下ラント也之以前ノ下ニ此後

十余年ニ頼義前九年ノ戦アリサスレハイ
マタ義家ノ末子義國有事モ山名ノ家有事
モ此時タレカアラカシメセンヤ備後ニ山
名ノ人多ク住セシハ足利殿ヲコラレシ後
義範ヨリ八代ノ孫山名伊豆守時氏但馬丹
後美作因幡備前伯耆出雲隱岐ホヲ領セシ
ヨリ起レルナレハ長久四年ニ山名清氏ヲ
ルハカラス天下ノ國郡ヲ丈量シテ石高ヲ
定メラレシハ豊臣家天正年中ノ事ナレハ
百石寄附トイフコトモイフカシ

通證ニ曰一説ニムカシハ此山ハ天台宗ニテ
今池ノ有處ニ諸堂宇アリシニヤ先年池ノ底
ヲ掘リシ時柱梁ノ類若干ヲ掘出セリトイフ
又此寺ノ青目上人ノ像アルハ此寺開基ニア
ラス當山唐ノ天台山上人ノ像ヲ彫刻シテ安置セ
タルナリトイヘリ又比力真言宗ニ才
テユレマテツタハリシ青目上人ノ像ナレハ
尤古像ナルヘシ
又云本堂ノ丸ニ古キ石ノ五輪塔アリ臺石ニ

正應五年二月二十八日座主トアリ名字磨滅
シテ不可讀因テ按ニムカシ天台ヲ移サレタ
リトイフハ比叡山ヲウツサレタルニヤ今コ
ノ座主ノ石牌アルト麓ニ日吉山王ノ鎮座
マシマスニテシルヘシ又元和三年ノ開帳札
慶安二年ノ札等アリ又云摺袈裟ノ銘ニ正元
二年四月十五日トアリ又蓮華形水鉢ノ銘ハ
天文十二八月日トアリ

懸亭三

カド田ヨリム子山王権現下

古蹟

旗立山城

和田小太郎

備後古城記

甲斐治郎

同上

通證云今甲斐次郎ノ祠アリテ末葉ノモノ

コレヲ祭ル

旗立石

六郡五小旗ノ山ノ穴の明

大石

火呑山

通證ニ此山當國高山ノ一ニシテ具山脚本山

金丸荒谷諸村ニ跨リ蛇園山ト實ニ雌雄ヲ競

絶頂ニノホル片ハ東ハ三備ノ諸山ヲ望南ハ

四國西ハ藝海北ハ雲伯ノ諸山ヲ望ム一名ヲ

亀力嶽ト云火呑山ト云ハ火呑ノ地ニ

ヨレルカト云

今按ニ蛇園ヲ火山ト云久佐ニモ火番屋鋪

ト云山アリコトモ火ノ見ニテ上古ノ烽火

臺ニハアラスヤ

府中市

福山ヨリ四里八丁五十間戊寅ニアタル村東
西七町十三間南北十二町二十三間申明亭榜
示七枚アリ町數九上市入下市横町上
辻町下辻町西町新町河原町飛屋
町石州海道ノ馬次ニ備中高屋ノ五里甲努
郡上下ノ五里二十五町十間世羅郡甲山ノ五
里モトノ府中ハ今ノ府川ニテコノハ街市ノ
西端ナリトヨシテ府川ノ條ニクハシ
田畠

三十四町五反四畝十歩

内畠二十四丁九反七畝五歩

歳額

五百三十九石二斗七升二合

内畠三百五十八石一斗二升四合

戸口

戸七百八十九

口二千六百六十七

内女千三百一僧十四磬八外ニ乞食三穢多五

十五

下畜

牛十馬十九

溝渠

芦田川

荒谷川

荒谷ヨリ出土生村ニテ芦田州ニ入

才田川

本山村界ヨリ所村界ニテ長六百三十四間

大溝

三栖井川上云生大井牛ヨリワカル府川町村

等六村用水ニ

池塘

庄野池

周三町二間

堰開

水碓二

一ハ福島時大蔵村ヨリウツス慶長年中ニ白銀屋車ト云管内ノ大碓ニ一ハ宝永七年ニツル阿賀屋車ト云芦田川ノ内ニアリ水野家時白銀屋ト云モノ撞實油ヲ造ルヲ許サレ

近年撰州ニ油座ト云モノイテキ西國ノ油ヲ

權スルニヨリテ白銀屋モ併セヤメラル

橋約

圮一

約一

梁四

山溪

谷一

廟墓

小祠十

社倉

出口村久三郎コレヲハシム麥斗人ニカレ麥

豊熟スレハスコレノ息ヲ廿々常年ニハ息

ヲトラス麥アレケレハワカケニ千ハス永富

元國カ記アリ

備後國府中社倉記

備後國府中人大戸直純家世富商質直好學且

義著称郷黨爲尊爲邑長吏見歉年亦民艱食惻

然心憫焉得朱子社食法心深欽之適會一官長

事敗伏罪有人譖直純漁民財賂官長者有司信

之繫直純獄、鄉人推其義而悲其寃、自父老子弟、
至鰥寡惻獨、莫不百方禱請、為事稍已、得白、乃出、
直純獄、直純在獄三十日、與兇徒羣聚、窮厄備至、
而益自激厲、憤然心嚮義也、及出、酌便宜、躬自捐、
麥十石、且使其二子、各出數斗、而募諸同志、不欲、
者勿強、斗升必錄、鄉人從義者五十餘人、得麥凡、
五十餘斛、以賑貸、貧民得貸者、出息什一、加具羊、
冬散之、夏則加息以斂、歉年蠲息之半、大飢則盡、
蠲之、自後歲必指三石二斗以繼之、蓋其用俸也、
如是六年、遷為出口里正、乃止、鄉人相繼助義者、

歲必十數人、而守視出納、必召邑吏、幹事、吏民皆、
樂為之用、始於天朋戊申、至寃政丁巳、凡十年、得、
儲米百九十餘石、以作社倉、先是、里正上月則覓、
謂直純曰、邑有閑地數武、蓋囿園廢地、而今猶復、
之、建倉于此、不亦可乎、直純喜、乃貸其地、歲收麥、
若干、以為經營資、至是、直純又與同志謀、醵金度、
材、卜日、經始、倉以丁巳六月成、高一丈、有二尺、廣、
二丈、有四尺、深一丈、有五尺、瓦屋白盛、門牆守舍、
皆備焉、於是、一鄉千數百家、官無斗升之費、而、
民有凶旱之儲、蓋直純之力也、余之至府中也、自、

管禮卿氏管子之徒十有餘人皆後先來見獨直
純有事不至浦上盛榮請為直純作之記余心已
許之既而直純襄車來見補人廣坐言苟及義直
純淚為之先下余撫掌曰有是哉斯人而有斯事
直純嘗還義金十兩于盛榮盛榮知直純之還義
而已後未必義固辭不得則欲以此起黨庠貸金
叔子以殖其財直純喜迺與同志議糾合錢財以
買學田蓋割之也出口村民嘗發前吏贓訟久不
決及直純為正質其曲直歸金于民人欲得而分
之直純諭以義自督其事且指其俸以為社倉邑有

芦田川雲石之要路也每大雨水必洋溢直純捐
財為架二地橋遠近便之邑嘗數罹災直純知代
第以尾可以紓患乃捐十數金致諸里正冀里正
與邑吏戮力一心募同志以集義月加年猶庶幾
可以成事也其舉動率皆此類而必引人同事以
身先之任其勞而分其功是以人人興行以成其
義云夫古之君子窮則達其身所謂生於憂患也
故孔子曰陳蔡之厄邛與二三子之幸也小人反
之其窮也濫放辟邪侈無所不為今直純處窮而
不困學以明善固執行之以成其義直純蓋古之

人歟、且直純之志、立于囹圄中、而其美成於囹圄、
廢地、柳不亦異乎、余行天下多矣、性易服義、喜樂
成人之美、所至必恣詢、先是十年、余在五島、作喜
和傳、去年遊天草、作小山清兵衛傳、并直純為三
一則、婦人死節而已、義之難如斯也、夫直純字子
孝、一称久三郎、今日其請、作社倉記、并録義行數
條云、于皆

寛政戊午秋七月下浣長門永富^又充國撰

問塾

浦上盛栄カ別荘ノウケニアリ出口村久三郎

カ兄^樂變ヲワカケテ居レカ死シテノケ負債アリ久三郎^樂ニナコレヲワリノフ盛栄ニカセシ若干金盛栄辞シテ受ケス兩人議ノ具金ヲモ^紫于テ書院ヲタツ樂群舎ハ博^紫栗山先生ノ十ワリル所扁額モソノ書ニ

塔寺

明淨寺

光耀山淨土真宗西本願寺末寺
通證ニ明淨寺略縁記ヲノス
柳當寺ハ鎌倉明光上人直第明淨法師ノ開基

ニテ明隆明詮明安明久明誓明嚴明圓明觀ト
相傳ハリ次第相續シテ當國芦田郡久佐ニ幽
棲ヲ示シケルカ子孫断絶シテ荒廢ニ及フ其
比先利元就ノ宗臣田坂善應同善慶ト云兄弟
二人天下騷乱ノ砌打死シ善慶一子田坂政秀
出家シテ其名ヲ教春法師ト号ス則當寺中興
ナリ教春モ初ハ久佐村ニ住セシカ猶崎ノ乱
ニヨリテ彼地ヲ退キ上山村ニ移ル御堂ノ前
トイフ是其旧地ナリ又其後高倉トイフ處ニ
草庵ヲカマフ彼地モ山林幽谷ナレハト云其

後栗柄村ニウツルソコヲ今ナヲ如来堂トイ
フ其後府中ニ移ル今明淨寺是ナリ餘コレヲ
略ス

今按ニ御堂ノ前今河面村ニ属ス
通證云今ノ寺地ハモト芦蕩ニ川原ト云地ノ
内ニ又云縁起ノ栗柄ハ土生ノ誤ニ

光圓寺

琢磨山同宗明淨寺末寺

通證云出口村湯森ヨリ移ル

法音寺

六郡志ノ丈八
平カ十二直云
ハキ之

今按以下別行
ニカクハシ

豊饒山法華宗妙顯寺末寺

六郡志ニモト篠尾村妙音寺ト云真言寺ニ大

覺上人以信ノ宗旨ヲカヘイワノ此カコニ

移ルノノ後小ナル觀音堂ニテ大覺屋鋪

ト云ツタヘレヲ水野玄蕃再興スト云寺中ニ

淺井ノ水ト云井有ト云廣谷村臼井ノ水ノ所

ニ光蓮寺ト云蓮ハ圓ノ誤ナルヘシト云

レモ今時ハニ寺ノ内ニモソノ外ニモ淺井ト

云名云ツタエス或ハムカレアリテ今埋レシ

ヤ

庵ニ

孝子

福山屋治兵衛

白銀屋吉郎兵衛

つま

節婦

二

十總叙ニイダス

出口村

福山ヨリ四里十二町戌亥ニアタル村東西六町南北二十二町三十間關譏了リ

田畝

二十九町八反六畝十三步

内畠十九町一反八畝二步

歳額

四百十石三斗八升一合

内畠二百十六石一斗四升二合

戸口

戸百九十三

口七百九十一

内女三百六十三僧六替一

畜

牛五十三 馬十二

溝渠

荒谷川

荒谷村界ヨリ目崎村界ヲテ長千七百間アル

ヒハコレヲ芦田川ト云

天神淵

不淨ヲ忌誤テケカスモノアレハ為崇ト云

神原洲

池塘

小池六

内一ヶ所羽中ニアルハ近比里正久三郎費ヲ
出シテ整ル

堰開

水碓三

橋約

小橋六

内圪二荒谷川ニワタスソノ處ヲ橋本ト字ス

ルヲ見レハムカシハ橋ワタセシ處ナルハケ

レド久シクタヘテ石碓ノミアリ漲溢スレハ

迂曲ニ碓下ヲマハリテ牛馬カヨハスマタ銀

山官吏ノ往來ニハ人夫ヲ多クアツメテ費多

キユヘ今ノ里正久三郎村民ニ課セスシテコ

レヲツクル人ニナ便ナリトス今時ノ^惠惠政ヲ

ウケレ心トテ一ヲ^惠惠ハシ一ヲウケハヒト名

ツク

山溪

谷五

神南備大明神

延喜式神名帳ニノスル處ノ賀武奈備神社是

十リ祭神別ニ辨説アリ

三代實錄云貞觀九年夏四月八日丁酉備後國

從五位上耳南備神高諸神並授正五位下

同元慶二年十一月十三日甲辰備後國正五位

下耳南備神高諸神並授正五位上

通證ニノスル所ノ耳南備社靈驗之事略

一永祿元戊午年天下一同旱魃ノ時國守先利

元就公此神ニ兩ヲ祈久クテシルニアリシ

ニヨリ廣島ヨリ能大夫諸役者樂人御コシナ

サレ神前ニ於テ品々ノ藝ヲワクサセ其上御

物料トシテ近所ノ田一町餘永代寄附トサレ

福島正則國中寺社領取上ケラレシ此社ノ

神領ヲ没収セラル

今按ニ永祿ノ片ハ先利家吉田ニアリ廣島

ノ片ハ輝元卿ナルヘシ元就興ラレシ片陰

德太平記ニ毛利元就一矢ヲ放タスニテ備

後三十六城ヲ降スト見ヘタレトモ塙主郷

帥處ニアリテ手下ニ属セシトイフ人
十レハ時勢ヲモヒルニ廣島人片十レ
又云寛永戊寅年ノ大旱ニ水野日向守勝成
公町村栄明寺宿泉法印ヲシテ當社ニテ雨
コイノラシメタマヒシルシアリシカハ先
例ニ任セテ神前榊樂興行有御供料田ヲ寄
附アル
寛文癸卯年ノ大旱ニモコ冬祈シテシルシ
アリ劇場踏歌十トヲ興行シケルヲアリシ

外多クアレトモ略スト云水野記系續大寶トアリ

本社宝永三年丙戌松平下總守再興
古^老傳ニ出雲國三穂崎ヨリ街鎮座
宝永三年赤岩尻田地一ヶ所御供料水野勝
成寄附
寛文三年境外山ニ所水野氏寄附
羽中八幡宮
通證云羽中八幡宮ハ八ツ尾古城ハ守護ノ神
ナリトツタフ昔ハ今ノ社ノ後ノ山今宮ノ壇
トイフ所ニ鎮座アリケルヲ元禄五年ニ今ノ

社地ニ下ニ其時造営スモト人御社ハ今境内
ニマシマ又天神ノ社コレナリ今人本殿ハ寛
保二年ニ造営ス寛保二年壬戌ノ六月五日柱
立同十一日上梁三年癸亥八月十三日遷宮ア
リ水野記ニモト社領十六貫ト云
又此社ニ古キ高麗狗アリニツ十カウ臺十ク
シテ粉飾剥落シテ木地下ナレリ又古キ鐸ノ
鐸アリ何レモ皆古物ニシテ其年代未由ヲ知
ルモノナシ拜殿ニ宝永戊子夏寄附ハ色紙短
冊形ノ額アリ書ハ竹夫トイヘル人ナリ

葦高大明神

葦那院迦神備中窪屋郡ニアルト同神ナリ
水野記ニ社領モト十三貫モ利ノ片三十貫トナリ後ニ粟屋右近飯田越中守
小祠十八十六貫ヲヨスト云今十三

社倉

本村今里正久三郎創ム法ハ府中ニヲナシ久
三郎實名直純

塔寺

慶照寺

光曉山淨土真宗明淨寺末寺舊趾北ノ山間ニ
アリ

庵一

神南ノ下ニアリ佳境ナリ

懋亭二

通證云懋亭ノ内ニタイコ堂ト云アリ或云昔

石邑ノ邊ニアリテハツ尾城ノ氏ノ太鼓ヲ打

シ堂ヲ此所へ引シヨリ太鼓堂ト云傳フトナ

リ

同書云石邑ノ觀音ト云ハ出口村荒谷村ノ堺

ノ山上ニアリテ頗奇絶ノ地ナリ大厦ノ如キ

巨石山腹ヨリ突出ス其岩ニ柱シテ一懋亭ヲ

作ル其亭ニ登ルキハ使人病懣其堂ヨリスコ

シワキニクバリ岩ナト云テ大石ノカサナリ

タル間ニ一小洞アリ樵童戯レニコレヲ穿遊

コエニク、リ堂ト云堂ヨリ向ハ八尾ノ城山

其間ハフカキ谷也只南面ノ遠望スルニ足

ル堂ヨリ上ノ山ニハ巨石疊トシテ其處ニ

愛宕ノ祠アリ此處ハ荒谷村ニ属ス余曾遊ノ

時小記ヲカキレテアリヲモレロキトコロナ

リ石邑トハムラハ群ナリ万葉ノ湯津岩ムラ

ノ類ナルヘシ山脉ハ火吞山旗立山ソレヨリ

スコシ下リテ此山ナリ府中ヨリハ荒谷山王ノ社地ヨリ登ルヲ至便ト云其他念至儉ニシテ攀ルヲ難シ

八尾山城

通證ニ此古城ノ鎧櫃トイフモノ有小森丹下トイフ人二百年前持傳シトテ今羽中農家ニアリ今ハ破却シテ底モ十次只一重ハカリ残レリ徑ニ尺ハカリ高三尺ハカリ是城主山名氏ノ舊物ナリトイフ丹下ハ即山名氏ノ家臣

古ノ其宅趾今羽中八幡ノ下ニアリ

山名伊豆守清氏 備後古城記

今按ニ此人應仁以前ノ山名系圖ニ見ス

ソノ以後ノ人ナリシヤ一本古城記ニハ時

與トアリ山名事總叙ニ出與ハ興ソ誤ナル

ヘシ

宮田備後守

備後古城記ニ應仁年中

今按ニ應仁別記重脩應仁記ニ宮田ハ山名

入道ノ一族ト見ユ此片宗全ノ息孫正忠是

豊備後ヲ管セラレシ丁巳ニ安那郡川北村
神邊ノ城ノ所ニ詳ニス是豊ハ父子ノ間心
ヨカラス父ニ背テ細川ニ興ス宮田ハ但馬
ニ有シト見ヘテ多勢ヲ卒テ是豊^{宗全}カ留主居
山内新九衛門カ館へ来リ攻シテ^{山内}ハ應
備後^{三宗全三属セシ人多カリシト同是豊備後ヲ圖領セシモ非スト云}仕ノ
初ハ在京セシニヤ別記ニ曰應仁二年戊
子九月三日内藤備前守丹波ノ國ヲ相催ニ
久下中澤款野本庄足立芦田以下大江山ヲ
打コヘ谷ノ堂峯ノ堂梅津桂ヲ發向シ同六

日嵯峨ノ天龍寺ヲハシメトシテ悉放火シ
ケリ依之山名金吾ヨリハ宮田備後守ヲ大
將トシテ同七日諸家ノ勢相ムカヒケリト
云云コレヲ以テ考ルニ宮田ハ宗全ノ命ヲ
中ケテ始終宗全^{是豊カ}ノ爲ニ奔走セシモノナリ^{ト云レト}
應仁以前ハ是豊父子ノ間モムツヒケル故
此時^{ナリ}何レノ命ヲ奉ルヤコノ子備後ニタレタルニハ宮田来リテ
ハツ尾ノ城ヲ守リ又山内ノ攻シテモアリシヤ新左衛門ハ應仁記ニ是豊カ
留守居トシテト宗全カ留守タルニ其家人感成文書ニテ著シテ
ノ此紀載詳ナラスマケルノ説ヲ傳ニルハ之西存ニテ再考ヲマツ

山名宮内少輔理興

豊備後ヲ管セラレシ丁巳ニ安那郡川北村
神邊ノ城ノ所ニ詳ニス是豊ハ父子ノ間心
ヨカラス父ニ背テ細川ニ與ス宮田ハ但馬
ニ有シト見ヘテ多勢ヲ卒テ是豊宗全カ留主居
山内新九衛門カ館へ来リ攻レテアハハ應
備後ニテ宗全ニ属セシメ多カリト同是豊備後ヲ圖ニ領セシモ非スト云
仕ノ片ニテハ歌ナリシト云工宮田ハ應仁
ノ初ハ在京セシニヤ別記ニ曰應仁二年戊
子九月三日内藤備前守丹波ノ國ヲ相催シ
久下中澤款野本庄足立芦田以下大江山ヲ
打コヘ谷ノ堂峯ノ堂梅津桂ヲ發向シ同六

日嵯峨ノ天龍寺ヲハシメトシテ悉放火シ
ケリ依之山名金吾ヨリハ宮田備後守ヲ大
將トシテ同七日諸家ノ勢相ムカヒケリト
云云コレヲ以テ考ルニ宮田ハ宗全ノ命ヲ
中ケテ始終宗全ノ為ニ奔走セシモノナリト
應仁以前ハ是豊父子ノ間モムツヒケル故
一族家ノ子モ但馬播摩因幡備後等ニ散在
シテ城ヲモ守リシ時此宮田モハツ尾ノ城
ヲ守リシナルヘシ
山名宮内少輔理興

山六郡志ニ出ツ

今按ニ天文年間ノ人ト見ヘテ吉備津宮ノ鐘ノ銘ニ此人ノ名アリ大内記ニコノ人神邊城ニアリシヨシニユ山名杉原ノ際姓字疑ハシキナリ神邊ノ條又辨説ニニユ節婦

なつ

總叙ニイツ

荒谷村

福山ヨリ五里乾ニアタル村東西三十四町二十八間南北五十二町

此村峰巒ノ間ニアリテ人家澗邊或ハ巒上ニアリ雲石ノ街道ニテ府中ヨリ上リ入ル坂根トイフ坂ヨリ阿字等ノ村へ下ル甚夕險隘ニテ雲氣衣ヲ濕ス坂下ニ藁荷ノ丸山ト云峰アリ阪上ヨリ羊コテ西岨突兀樹木鬱葱ノ間季春ノ比ニイタレハヤマフキノ花滿山ニ開キ原野ノ菜花ノ畦ヲ見ル如ク黄金堆中ニ入ルコ、千ストイフ

田畠

六十二町七反六畝十九步

内畠四十四町九反二畝十八步

歳額

四百九拾壹石六斗六升

四百五十五石二斗七升八合

内畠二百六十六石五斗二升

戸口

戸百八十九

口九百四十九

内女四百六十二

畜

牛百三十四 馬二十六

溝渠

小澗二

一八空木嶺ヨリ出一八木野山村界ヨリ出合

又一川トナル内ニ大石ヲ柱ニシタル橋アリ

幅八尺長六間半石高二間田リ六間

池塘

小池三

堰開

水碓一州

水碓橋約

北九

山溪

谷五

嶺二

板根

上下村及雲州石州ニ通ス

空木越

東城ニ通スヲ下ニワカレト云処アリ上ト東条ヘワカル岐路ナリ

今按リカレ大路ナルベシ
廟墓

日吉山王宮

東谷ニアリ

山田明神

宮ハカト云木山明見ノ二ノ宮ト云

八幡宮二社

一ハ室房ト云引野村ニミユ一ハ高倉

龍田大明神

リウタトヨム此處楓槭多シ棟札ニハ夷王子

社トアリ

小祠十六

塔寺

總亭六

尾原 清水

谷中 板井 迫

高倉 室房



日吉山金堂

南臺

